

新型コロナとインフルエンザワクチン定期接種の勧め (富良野市広報から)

北海道社会事業協会富良野病院 名誉院長

地域医療連携推進法人ふらのメディカルアライアンス 代表理事

旭川医科大学富良野地域医療教育センター 客員講師

角谷 不二雄

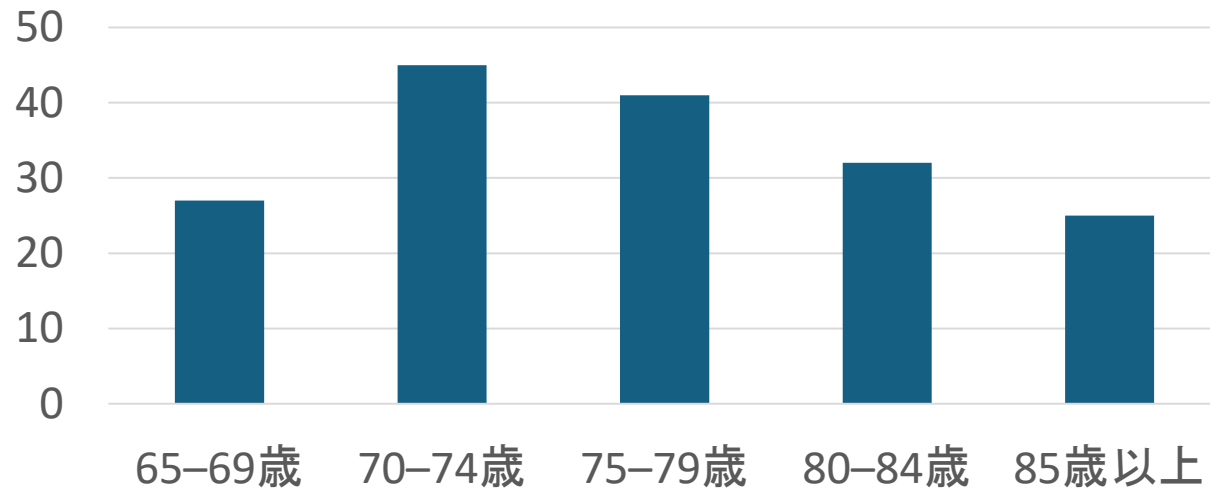
新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は、2020年以降、世界中で流行を繰り返しています。一方、インフルエンザは、主に冬を中心に毎年流行します。この二つの感染症は、いずれも呼吸器から感染し、ウイルスが少しずつ変異し、感染やワクチンによって得られた免疫が時間とともに弱くなるという共通点があります。症状も似ており、特に高齢者では重症化しやすいです。そして、どちらにも重症化を予防するためのワクチンがあります。

2026年度の新型コロナワクチンとインフルエンザワクチンの定期接種(B類)は、10月から始まりました。対象は、65歳以上の方と、60～64歳で心臓、腎臓、呼吸器または免疫機能に一定の障害がある方です。主に本人の発病や重症化を予防することを目的としており、接種の努力義務はありません。富良野市の自己負担額は新型コロナ4,500円、インフルエンザ1,200円となる予定です。定期接種の対象者以外は任意接種となり、全額自己負担となります。

新型コロナワクチンが全額公費負担であった時期、富良野市では高齢者の接種率が高く、2021年春の初回接種は94.2%、2023年秋は69.3%でした。しかし、定期接種となった後は、2024年度32.4%、2025年度15.6%と低下しています。その理由を明らかにするため、地域医療連携推進法人ふらのメディカルアライアンスと旭川医科大学富良野地域医療教育センターは、富良野市と中富良野町に住む65歳以上の方を対象にアンケート調査を行いました。172人の回答者の背景を図1に示します。

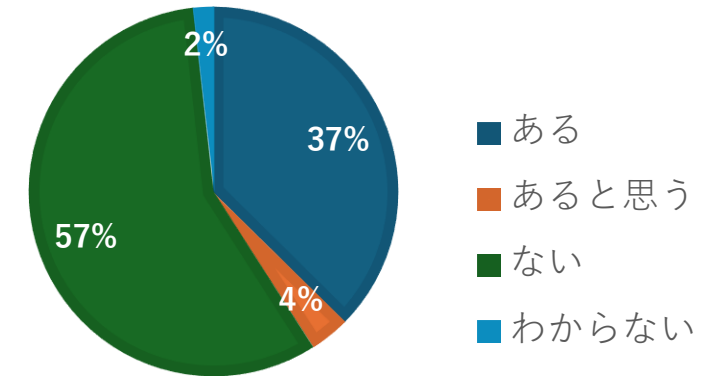
ご協力いただいた172人の背景(図1)

年齢



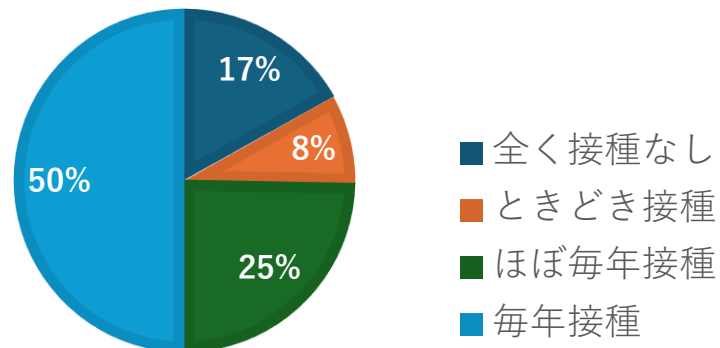
新型コロナウイルス感染症(COVID-19)

かかったことは



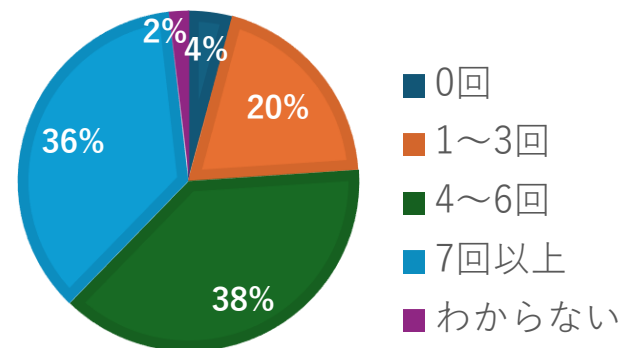
インフルエンザワクチン

2020年以後

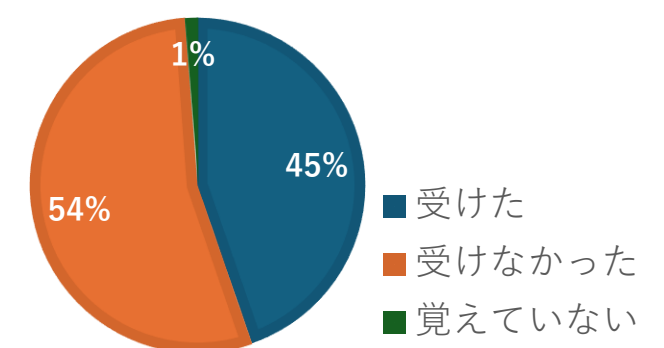


新型コロナワクチン

接種回数



昨年度の接種

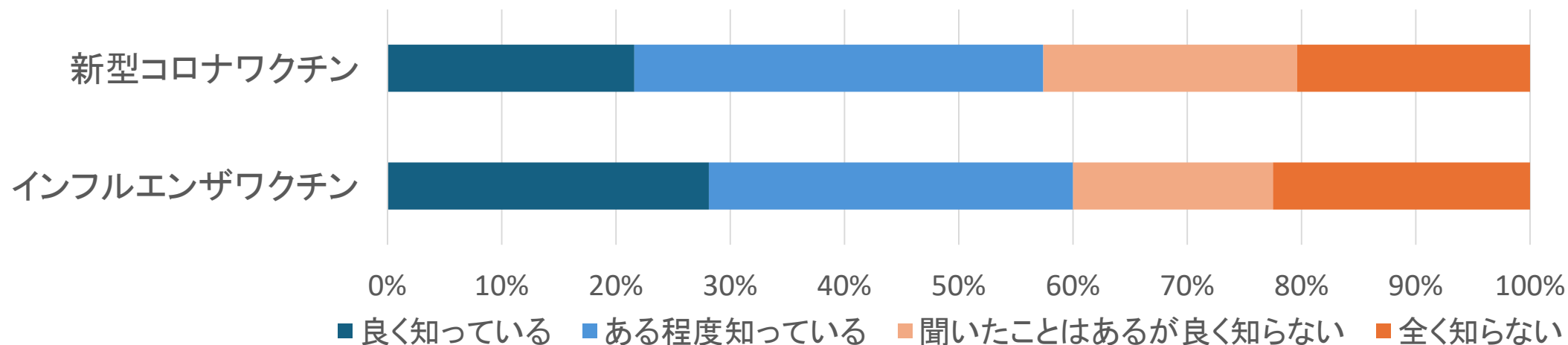


新型コロナワクチンとインフルエンザワクチンについて、65歳以上を対象とした定期接種であることの認知度には大きな違いはありませんでした。しかし、「今年秋に接種するつもり」と回答した方は、新型コロナワクチン39%に対し、インフルエンザワクチン72%と大きな差がみられました(図2)。ワクチンを受ける理由では、「重症化や死亡を防ぎたい」「感染症にかかる可能性を減らしたい」「家族にうつしたくない」が、両ワクチンに共通した主な理由でした。一方、「毎年受けるのが習慣になっている」はインフルエンザワクチンで多くみられました(図3)。反対に、ワクチンを受けない、あるいは迷っている理由では、「副反応が心配」「安全性に不安がある」「現在の流行状況では必要性を感じない」「ワクチンについての情報がよく分からない」「過去に接種後の体調不良があった」などが、新型コロナワクチンで多くみられました(図4)。また、「接種率を高めるために必要と思うこと」では、「接種費用の補助」「副反応の少ないワクチンの導入」「副反応についてのわかりやすい説明」「ワクチンの効果についてのわかりやすい説明」が上位でした(図5)。

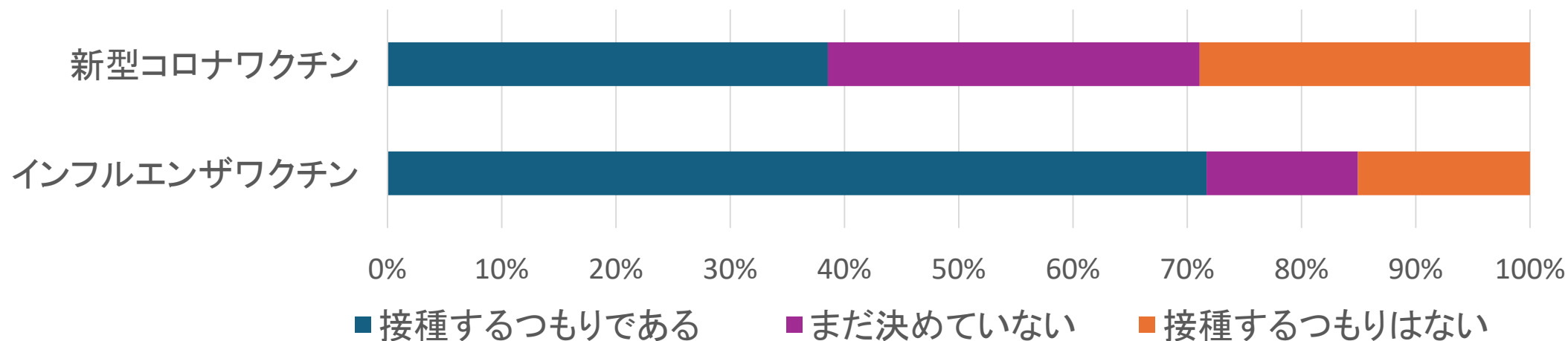
現在も、高齢者のCOVID-19による重症化・死亡リスクは高い状態が続いています。2025年の65歳以上のCOVID-19による死亡者は21,003人で、インフルエンザの6,333人を大きく上回りました。また、2024年秋の新型コロナワクチンについて、日本国内では65歳以上の発症を44.3%、60歳以上の入院を61.8%減らす効果が報告されています。さらに、2025年4～9月にも60歳以上で72.1%の入院予防効果がみられ、秋の接種による効果が翌年夏まで続く可能性が示されています。COVID-19は今後も流行を繰り返すと考えられます。また、新型コロナウイルスは変異を続け、感染やワクチンによって得られた免疫も時間とともに弱まります。このため、日本感染症学会などは9月1日、65歳以上の方に最新の新型コロナワクチンの定期接種を強く推奨するとの見解を発表しました。

定期接種の知識と、今年秋の接種意向(図2)

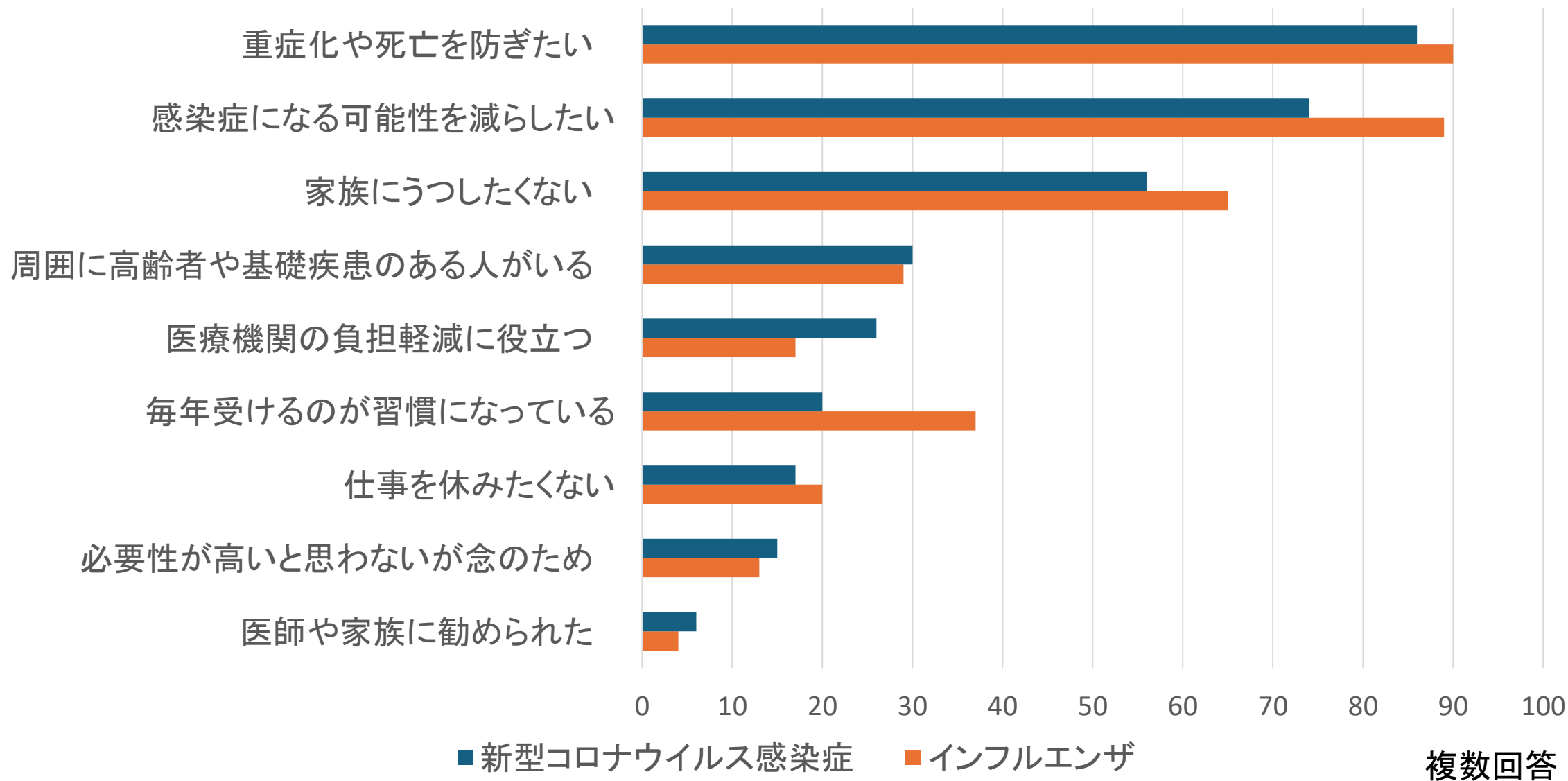
65歳以上を対象とした定期接種であることをご存知ですか



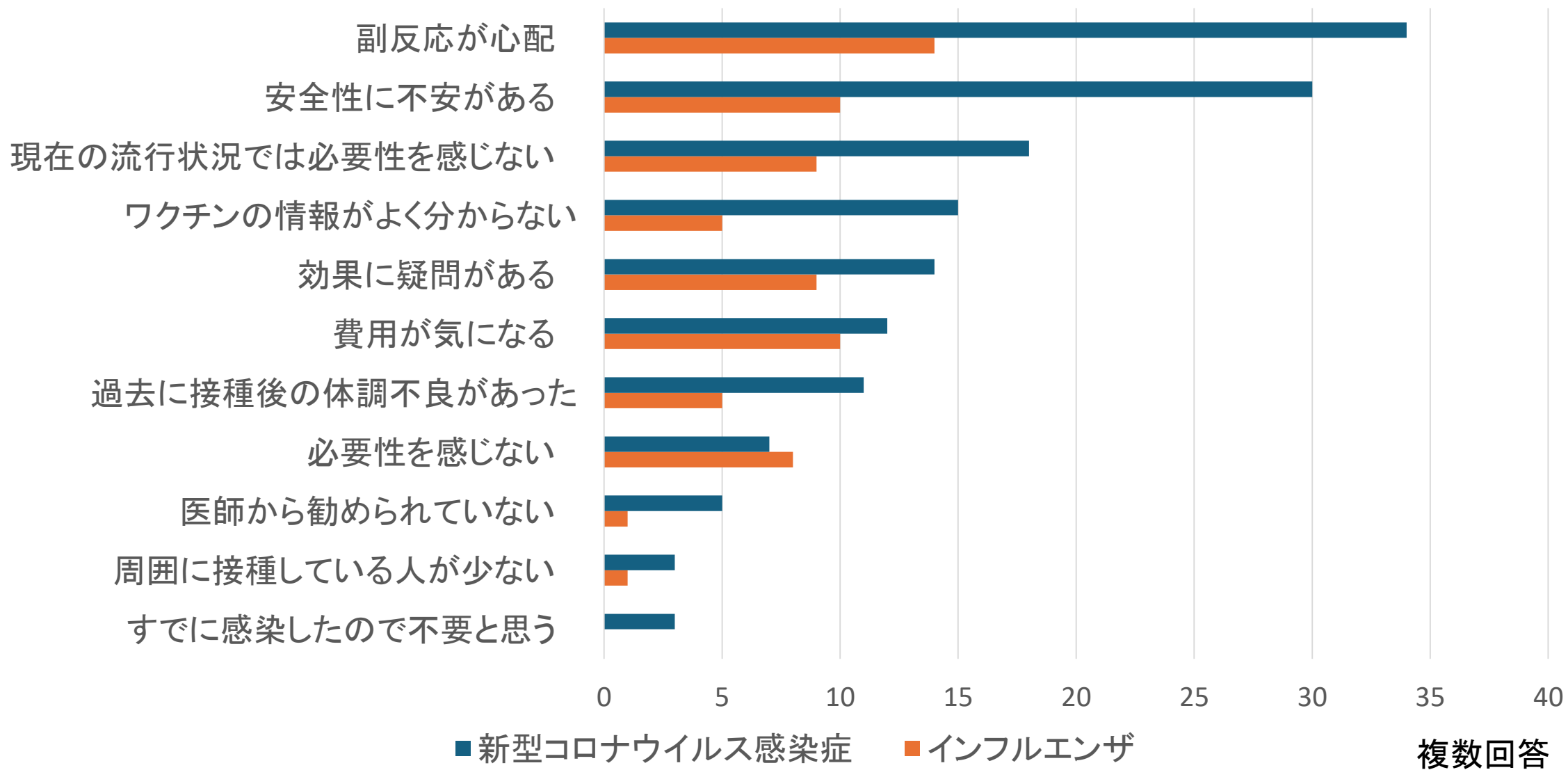
今年秋の定期接種について、現在のお考えに最も近いものは



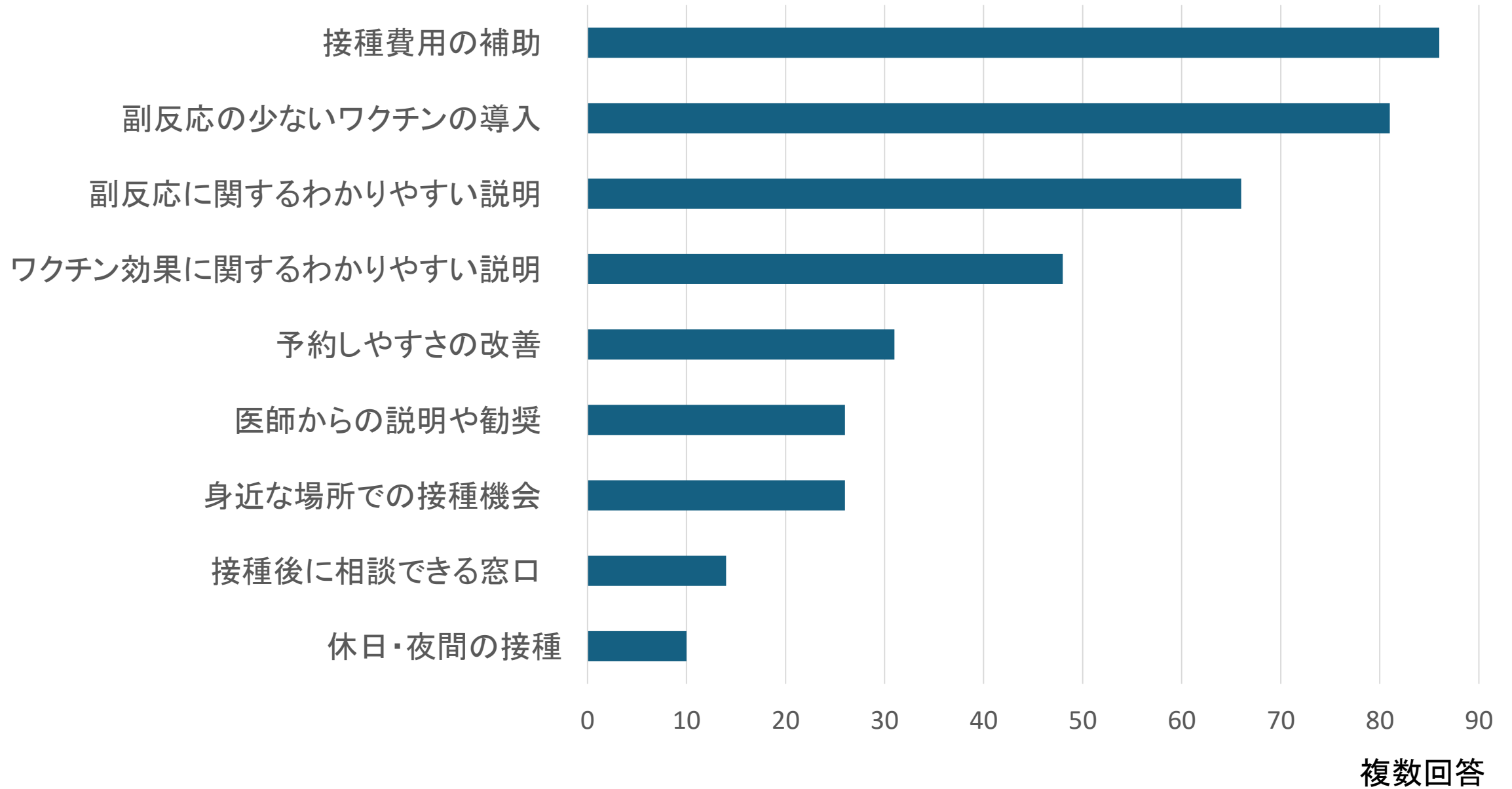
ワクチンを受ける理由(図3)



ワクチンを受けない・迷う理由（図4）

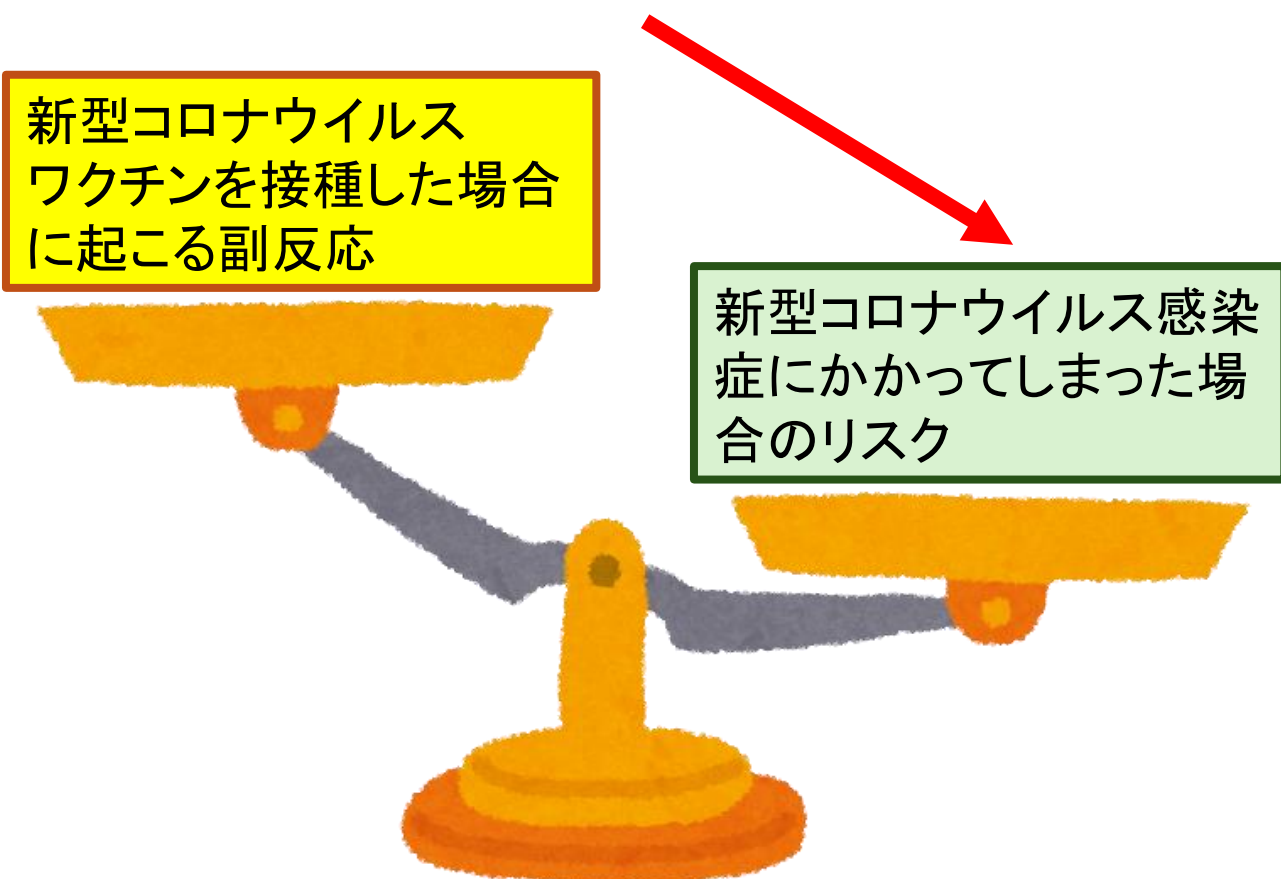


接種率向上のために必要と思うことは何ですか（図5）



富良野協会病院では、今年度から従来のmRNAワクチンに加え、組換えタンパクワクチンも選択できるようになりました。組換えタンパクワクチンは、臨床試験で発熱などの全身性副反応が比較的少ないことが報告されています。

新型コロナワクチン、インフルエンザワクチンともに、高齢者の重症化を防ぐための大切な手段です。定期接種の対象となる方は、ぜひ接種をご検討ください。



新型コロナウイルス
ワクチンを接種した場合
に起こる副反応

新型コロナウイルス感染
症にかかってしまった場
合のリスク

65歳以上の場合、てんびんの
バランスはワクチンの副反応よ
りも感染症のリスクの側に大き
く傾いています